

1988年度★フリー・ハンデ決定

タマモクロスに高い評価で68%。
オグリキヤップ、サッカーボーイ、
サクラホクトオーにも高い評価。

●1988年のフリー・ハンデは、美浦、栗東、本部の10人のハンデキヤップバーが討議の末、4歳馬、5歳以上、3歳馬、短距離の4部門が別表のようすに決定した。

4歳馬 オグリキヤップは、二冠馬・ミスター・シービーに並ぶ65%。
サクラチヨノオーは63%。

—4歳馬について、まずことしの概況から話を進めていただきたい。

小林 ことしは1年を通して関西馬の活躍、次の活躍、他の活躍がひとつとわ

目立つた。秋は、春の活躍馬が軒並み故障休養して興味をそがれたが、そのかわりオグリキヤップというスターホ

ースが出たのは大きな収穫だった。タ

マモクロスとの3度にわたる芦毛の対

決は、史上に残る名勝負として後世に語り継がれることだろう。オグリキヤ

ップはクラシック登録がなく、フリー

ハンデをつける上で過去の馬との比較がむずかしいが、歴代の中でも相当高い評価を与えるなければならないと思う。

岩澤 昨年の4歳はまったくの不振だ

ったが、ことしは昭和61年の4歳馬と肩を並べるハイレベルな年だった。ハ

イセイコーの再来といわれたオグリキヤップの有馬記念制覇、サッカーボーイの函館記念での日本レコード等々、

4歳馬が歴戦の古馬を一蹴するレースが目立つた。

吉田 オグリキヤップの活躍があまりにも目覚ましく、またクラシック勝ち馬がそれぞれ違うため、クラシック馬の影がすっかり薄くなってしまった。恰

好だ。しかしサクラチヨノオーがダービーレコードで勝っているようにレベルはみな高い。

甲佐 4歳馬がこれほど面白い競馬を見せてくれたのは久しぶりだ。アサカ

オー、マーチス、タケシバオーの三強が激突した昭和43年、トウシショウボ

イ、テンポイント、グリーングラスら

が活躍した51年、これらの年に匹敵するレベルだったと思う。

岡部 クラシックの勝ち馬がすべて変わったのは6年ぶりだ。こういう場合は例年に比べてレベルが低いと見るのが相場だが、ことしはちょっと様子が違う。それぞれの馬は例年と比べて何ら遜色ない勝ち方をしており、レベルは例年並みかもしれないがそれ以上のものがある。にもかかわらず印象が薄いのは、やはりオグリキヤップの存在が大きい。過去の馬との比較がむずかしいが、もしクラシック登録があれば三冠

を取っていたかもしれない。最近の三冠馬ミスター・シービーには65%。

甲斐 過去、ミスター・シービーには65%、シンボリルドルフには67%をつけた。三冠馬と同等の評価をするならば最低でも65%ということになる。

渡辺 春先の競馬はメンバーが手薄で比較材料にならないが、秋の4走はひじょうに高く評価できる。秋を基準にしてかかるべきだろ。

岩澤 昨年の4歳はまつたくの不振だ

ったが、ことしは昭和61年の4歳馬と肩を並べるハイレベルな年だった。ハ

イセイコーの再来といわれたオグリキヤップの有馬記念制覇、サッカーボーイ

の函館記念での日本レコード等々、

4歳馬が歴戦の古馬を一蹴するレースが目立つた。

吉田 オグリキヤップの活躍があまり

にも目覚ましく、またクラシック勝ち

馬がそれぞれ違うため、クラシック馬の影がすっかり薄くなってしまった。恰

が

が

'88年のフリーハンデ

4歳馬

65	オグリキャップ
63	⑩サクラチヨノオー
62	サッカーボーイ
61	⑨スーパークリーク
59	⑩ヤエノムテキ
58	*⑩コスマドリーム
57	⑩メジロアルダン
56	*⑩アラホウトク
55	*⑩シヨノロマン
54	*⑩ミヤマボビー
53	ダイゴウシュール
52	ディクターランド
	トウショウマリオ
	ミュゲロワイヤル
	*フリートーク
	マイネルグラウベン
	モガミナイン
	ガクエンツービート
	⑩カットクシン
	⑩コウエイスパート
	コクサイトリブル
	⑩ヤエノダイヤ
	⑩ファンドリテクター
	メイショクボーライ
	*アインリーゼン
	⑩アルファレックス
	キクカラロイヤル
	キヨウシンムサシ
	*⑩キリセオリー
	タカラフラッシュ
	*⑩マイネルフリッハス
	マチカネイトラス
	モガミファーニ
	*ヤグラステラ
	*リキアイノーザン

(計38頭)

※牝馬

○父内国産馬

地元出走馬

近場取引馬

海外国産馬

がメジロモンスニー、ビンゴカンタといった馬で恵まれた感がある。三冠を取ったからといってそう高く評価できる内容ではなかった。したがってオグリキャップがミスターшибーよりも上の66。でもかまわないと思う。

吉田 わたしもミスターшибーよりはオグリキャップのほうがランクは上とみるが、66。ではシンボリドルフとの差が1。となる。同じ1。差でどちらを選ぶかということになれば、やはり65。だ。

岡部 同感だ。わたしも気持ちは66。

だが、それではシンボリドルフにあまりにも近づきすぎる。したがって、強めの意味を込めてオグリキャップに65。というのでどうだろう。

小林 では、そうしよう。数字は同じでも力はミスターшибーよりも上といふ注釈つきで、オグリキャップを65。に決定する。

渡辺 次にサクラチヨノオーの評価に移ろう。オグリキャップから二つ下の63。といったところだろうか。ダービーでコードで勝ったといつても、タイトル一つだけではそんなに高く評価できない。

甲斐 賛成だ。昨年のサクラスター一が皐月賞と菊花賞で64。これと並ぶのはちょっと苦しい。

今泉 62。では例年のダービー馬と同じになる。ダービーで走っているのに、これではかわいそうだ。やはり63。に落ちつく。

渡辺 メリーナイス、シリウスシンボリが63。ちょうどいいと思う。

小林 全員、異論はないようなのでサクラチヨノオーを63。にする。

渡辺 この次にくるのはサッカーボーイ、ヤエノムテキ、スーパークリーク

吉田 ただオグリキャップのばあい、三冠と有馬記念を勝ったシンボリルド

ルフとはちょっと差がある。それを考

えるとミスターшибーと同等の評価

が妥当だと思う。

今泉 賛成だ。ミスターшибーが三

冠馬になつたときの対戦相手を考える

と、オグリキャップのほうが評価は上

になる。しかしながらミスターшибー

の一の65。は三冠を加味してのものだか

ら、数字的にはオグリキャップも65。

でかまわないとと思う。

甲佐 ミスターшибーは有馬記念に

出なかつたが、あのときの優勝馬が4

歳のリードホールーだから、もし出て

いれば勝てる程度の力はあつたと思わ

れる。

小林 タマモクロスとの比較が一つの

ポイントになるだろう。天皇賞、ジャ

パンCではタマモクロスにかなわなか

つたが、他の土馬はまったく問題にし

なかつた。そして最後の有馬記念では

タマモクロスを負かしている。ジャパ

ンCにしてもことしの招待馬はそんな

にレベルの低いメンバーではなかつた。

オグリキャップは体がやわらかくムダ

な動きがまつたくない。じつにかしこ

い馬で騎手の命令に鋭く反応し、つね

に目いっぱいの競馬をする。そういう点から見てもミスターшибーよりも上とみた。

渡辺 しかし、古馬で傑出した馬はタマモクロス1頭で上位陣の層が薄かつたことは否定できない。したがつて有馬記念を評価して、ミスターшибーと並べて65。とするのが妥当な線ではないだろうか。

岩澤 三冠を取り有馬記念でミスターшибーとカツラギエースを負かしたシンボリルドフには、これ以上の馬はないという上限の意味も含めて67。とした。もしオグリキャップを66。とするならば、そのシンボリルドフには、これ以上の馬記念、天皇賞2着、ジャパンC3着だが、これはダイナガリバーの有馬記念、ダービー、菊花賞2着に匹敵するとしても、果たしてミスターшибーの三冠に匹敵するだろうか。ミスターшибーと同等の65。でもつけすぎという感じがしないわけではない。同等に反対はしないが、一方で三冠の重みに薄れていくさみしさが残る。

朝日 ただ今後二千四百mや三千mは距離が長すぎて能力が發揮できないといふ馬は、三冠路線を歩かないでいられるが、二千mならばどれに負けないといふ馬は、三冠路線を歩かないでいよいよ馬月賞と菊花賞で64。これと並ぶのはちょっと苦しい。

甲斐 賛成だ。昨年のサクラスター一が皐月賞と菊花賞で64。これと並ぶのはちょっと苦しい。

今泉 62。では例年のダービー馬と同じになる。ダービーで走っているのに、これではかわいそうだ。やはり63。に落ちつく。

渡辺 メリーナイス、シリウスシンボリが63。ちょうどいいと思う。

小林 全員、異論はないようなのでサクラチヨノオーを63。にする。

渡辺 この次にくるのはサッカーボーイ、ヤエノムテキ、スーパークリーク

ではない。それに、もしタマモクロス

吉田 このなかではサッカーボーイが上位だろう。例年なく有力馬が出揃

いレベルの高かった函館記念を日本レコードで圧勝したスピードはすばらしかった。サクラチヨノオーから一つ下の62^{*}はつけたい。

渡辺 同感だ。マイルチャンピオンシップは後方からいつて直線だけで一気に後続を突き放した。とにかく、すごいの一語に尽きるレースだった。

岩澤 あとの2頭スパークリーク、ヤエノムテキは61^{*}だろう。

滝澤 異論はない。

小林 ではサッカーボーイを62^{*}、スパークリーク、ヤエノムテキはともに61^{*}とする。

渡辺 メジロアルダンには60^{*}をつけたいが、どうだろう。

今泉 例年のダービー2着馬は59^{*}だ。60^{*}の大台は苦しい。

渡辺 しかし4歳になつてデビューシャーは4戦目。このキャリアであわやの見せ場をつくるというには、並の馬の能力ではできない。

小林 60^{*}。台の評価をつけるには、関連した何かがもう少し必要だ。

甲佐 たしかにダービーではあわやの馬をしたしNHK杯も微差の2着だが、メジロアルダンには重賞勝ちのタイトルがない。

朝日 ピゼンニシキがあれほど重賞を勝つて、なおかつ皐月賞をシンボリルドフと接戦の2着で60^{*}だ。それから比較してメジロアルダンに60^{*}はつけられない。

小林 ではメジロアルダンは59^{*}に決まり。

朝日 ピゼンニシキがあれほど重賞を切るというのは、相当な能力を秘めている証拠。ダイゴウシュールが57^{*}で、あとの3頭は56^{*}の並びだ。

滝澤 異論はない。

小林 では整理したい。ダイゴウシュール57^{*}、56^{*}が3頭でトウショウマモドリーム、アラホウトク、ミヤマボ

ピ、シヨノロマンの4頭だが、すべて58^{*}の並びでどうだろう。ことしの

牝馬は一長一短あって例年どおりの評価を与えていく。

甲佐 いや、コスマドリームだけは一上の59^{*}にしたい。オーラスに勝つたあと高松宮杯、小倉記念、京都大賞典で善戦している。4頭のうち古馬相手に善戦しているのはこの馬だけ、その点は評価する必要がある。

小林 オーラスのあとの3戦は負けているが、あの時期の4歳牝馬にしてはひじょうに中身の濃いレースだった。

岡部 一つ上の評価でいいだろう。

小林 では、コスマドリームを59^{*}に決定する。

甲佐 あとの3頭は58^{*}にしよう。

渡辺 メジロアルダンには60^{*}をつけたいが、どうだろう。

今泉 例年のダービー2着馬は59^{*}だ。60^{*}の大台は苦しい。

渡辺 しかし4歳になつてデビューシャーは4戦目。このキャリアであわやの見せ場をつくるというのは、並の馬の能力ではできない。

小林 60^{*}。台の評価をつけるには、関連した何かがもう少し必要だ。

今泉 その下のグループはダイゴウシユール、ディクターランド、トウショウマリオ、ミュゲロワイヤルだが、このなかではダイゴウシユールをやはり上位に置くべきだろう。

吉田 賛成だ。ダイゴウシユールのセントライト記念はじつに強い勝ちっぷりだった。

渡辺 道悪を直線だけで7馬身もぶつかりたのは、相当な能力を秘めている証拠。ダイゴウシユールが57^{*}で、あとの3頭は56^{*}の並びだ。

滝澤 異論はない。

小林 では整理したい。ダイゴウシユール57^{*}、56^{*}が3頭でトウショウマモドリーム、アラホウトク、ミヤマボ

ピ、シヨノロマンの4頭だが、すべて58^{*}の並びでどうだろう。ことしの

クの3頭。

朝日 54^{*}、53^{*}はすべて牡馬だ。まず54^{*}はヤエノダイヤ、コクササイトリップ、ガクエンツービート、カットクシン、コウエイスパートの5頭。53^{*}はファンドリデクターとマイショクボーイの2頭。

小林 スカーレットリボン、ツジノシヨウグン、ラガーブラックは短距離部門で評価する。

5歳以上
タマモクロスは、シンボリルドルフが「5%減の68%」

——古馬についてまずことしの概況から話してほしい。

岡部 春秋の天皇賞を連覇し、ジャパンCであわやの2着にきたタマモクロスに話題は尽きると思う。ただ、この馬の能力は十分に評価するにしても、等に並べてやることでこの馬の十分な評価したい。

今泉 その下のグループはダイゴウシユール、ディクターランド、トウショウマリオ、ミュゲロワイヤルだが、このなかではダイゴウシユールをやはり上位に置くべきだろう。

吉田 賛成だ。ダイゴウシユールのセントライト記念はじつに強い勝ちっぷりだった。

渡辺 道悪を直線だけで7馬身もぶつかりたのは、相当な能力を秘めている証拠。ダイゴウシユールが57^{*}で、あとの3頭は56^{*}の並びだ。

滝澤 異論はない。

小林 では整理したい。ダイゴウシユール57^{*}、56^{*}が3頭でトウショウマモドリーム、アラホウトク、ミヤマボ

ピ、シヨノロマンの4頭だが、すべて58^{*}の並びでどうだろう。ことしの

甲斐 52^{*}に牝馬のアインリーゼン、マルシングアトラス、ホロトアイフル、

サークルシヨウウワ、ヤグラステラ、マチカネイトハン、リキアイノザン、キリセオナーの以上8頭。牡馬ではアルファレックス、マイネルフリッセ、

キクカライヤル、タカラフラッシュ、モガミファニー、キヨウシンムサシの以上6頭。

馬の重賞6連勝は昭和40年のアサホコの5連勝を破ることになる。天皇賞が56年に1着勝ち抜き制でなくなつて8年目にして初の春秋連覇は、あのシンボリルドルフさえ得なかつた偉業だ。負けたジャパンCの見方をどうするかだが、勝つたペイザバトリーはこの中心がオグリキヤップ、サッカーボーイといつた4歳馬だった点がいくらか気になる。

甲佐 タマモクロスはマイル戦を除く古馬のGIレースにすべて出走し、1着3回、2着2回の成績を残した。2着も僅差、無事によくこれだけ走つてくれたと思う。昭和52年にテンボイントが7戦6勝しているが、このときと

吉田 そういう点で、ジャパンCを勝ったシンボリルドルフ、カツラギエースとの比較で評価するのが妥当だろう。

滝澤 ことしは4歳馬の活躍が目立つたが、タマモクロスを除いては上位の古馬陣がひじょうに手薄だったことは否定できない。しかしオグリキヤップ

を高く評価するならば、タマモクロスには距離に限界がある。

渡辺 タマモクロスはひじょうに乗り

にくい馬で、有馬記念はいちばん悪い

岩澤 次にくるのは牝馬の上位陣コス

リオ、ディクターランド、ミュゲロワ

イヤル。

小林 では整理したい。ダイゴウシユ

ール57^{*}、56^{*}が3頭でトウショウマ

モドリーム、アラホウトク、ミヤマボ

ピ、シヨノロマンの4頭だが、すべて58^{*}の並びでどうだろう。ことしの

岩澤 ことしは5歳馬の成長が見られ

5歳以上

68	⑩タマモクロス
61	ニッポーテイオー
60	メリーナイス
59	スズパレード
58	フレッシュボイス
58	メジロデュレン
58	カシマウイング
57	⑨ランニングフリー
57	レジェンドティオー
56	⑩ウインドストース
56	トウショウウレオ
55	ランドヒリュウ
54	ゴールドシチー
54	スタホーク
53	※メジロフルマー
53	モガミヤシマ
53	スルーオダイナ
52	⑩プレジデントシチー
52	※⑩抽コーセイ
52	⑩ダイナカーベンター
52	メイショウエイカン
52	※メジロディッシュ
52	⑩アイアンシロー
52	⑩カイラスアモン
52	※市ソウシンホウジュ
52	タニノスイセイ
52	※トップコート
52	⑩ハツシバエース
52	市バッシングパワー
52	⑩ヒテリュウオーラ
52	コバノリッチ
52	※シヨノリーガル
52	ソダカザン
52	ダイナオリンピア
52	※ダイナオレンジ
52	※ダイナブリーズ
52	地タガジョー
52	⑩トウショウユース
52	地トキノオリエント
52	市メーカースマート
52	レイクブラック
52	ローマンプリンス

(計43頭)

すさみしい年だった。その中でタマモクロス1頭だけが完全に抜けている。それが、それをメンバーが弱かつたと单纯に片付けてしまうのはかわいそうだ。

小林 タマモクロスは仕上げも乗り方もひじょうにもすかしい馬で、その意味でこの馬の関係者には頭が下がる。秋の天皇賞はぶつつけ本番で出走、早めに抜け出してオグリキヤップを力でねじふせた。ジャパンCはみずから勝ちにいつてあわやの2着、有馬記念も体調や展開から決して評価の下がるものではない。

——では具体的な評価に移りたい。小林 タマモクロスの方が完全に抜けているので、まずこの馬の評価を定めたい。過去、シンボリルドルフには70%、カツラギエースには66%がついている。先ほどシンボリルドルフ級といふ言葉が出たが、対戦相手を考えると同じ70%にもつていくのはちょっと無理がある。

岡部 メンバーが弱いと考えるなら67%、強いと考えても68%が妥当なところではないだろうか。

岩澤 カツラギエースの66%よりは上に評価したい。

小林 同感だ。少なくともカツラギエースより1%は上だろう。

滝澤 これまで4歳と古馬のフリーハンデをまつたく切り離して考えてきたわけではない。カツラギエースとシンボリルドルフの関係があつたし、サクラユタカオーとダイナガリバーの関係もあった。そこでオグリキヤップとタマモクロスの関係も見ておいたほうがないと思う。タマモクロスがカツラギエースより1%上の67%とすれば、オグリキヤップの2%上だ。有馬記念でタマモクロスはオグリキヤップに負けているわけだから、この2%差というのちよつと開きすぎではないか。

渡辺 天皇賞やジャパンCの内容を見ると、あの1馬身弱の差は詰まりそうにない感じだった。タマモクロスがもしか完調で有馬記念に出て、展開のあやがなかつたなら、やはり1馬身弱の差は詰まらなかつたように思う。

小林 ジャパンC、有馬記念に負けたとしても、その内容はひじょうによく評価できる。

甲佐 カツラギエース、シンボリルドルフの年代と比べると古馬のレベルがことは低い。そうした背景を考えるとタマモクロスは66%でいいのではないか。

いか。

小林 同じジャパンCでもカツラギエースは展開にまぎれのあつた競馬、一方のタマモクロスは人気を背負って勝ちにいつての競馬。2着でもその点は評価してやらねばならない。

カツラギエースと比較するならば、一つか二つはタマモクロスが上だろう。

朝日 賛成だ。カツラギエースに66%がついた年は9戦5勝で、ジャパンCと宝塚記念の二つのGIを勝っているが、4回負けたうちの3回は完敗を喫している。一方のタマモクロスは7戦5勝2着2回でGI勝ちは天皇賞の春が、4回負けたうちの3回は完敗を喫している。一方のタマモクロスは7戦5勝2着2着はG-Iと有馬記念。完敗は一度もなく、しかも2着はG-IのジャパンCと有馬記念だ。この内容で2頭を同等にすることはできない。タマモクロスのほうがカツラギエースよりも二つは上、つまり68%が妥当だと思う。

甲佐 相手関係の点で、二つ上の68%というのはつけすぎではないか。

朝日 たしかに古馬の層がことしは薄かったが、ジャパンCの招待馬は例年なくハイレベルだった。シンボリルドルフやカツラギエースが勝ったときは結構な差があったが、ジャパンCの招待馬は例年なくハイレベルだった。シンボリルドルフはかなりレベルが落ちる。

順調さを失っていたように、外国招待馬は調子じたいがはつきりしない。したがって、どの年のメンバーが強かつたか弱かつたかという比較はひじょうにむずかしい。

滝澤 ジョーンヘンリーの例もある。吉田 それに競馬の上位者が違います。トニー・ビンはヨーロッパの力のいる馬場には向いても、日本のような軽い馬場には向かなかつたのではないか。

小林 タマモクロスの強さは誰もが認めることで、あとは対戦相手の問題になってきた。取り巻きが弱いということで評価を下げることも一理はあるが、タマモクロスがこれだけの成績を残したことじたいを評価してやるべきだと思う。取り巻きがどうであれ、ほんとうに強い馬でなければこれだけの成績は残せない。そういう意味でわたしも68%に賛成だ。

滝澤 もう一度オグリキヤップを比較に出すが、この4歳と5歳の2頭の差が果たして3%あるだろうか。

甲斐 3回対戦してタマモクロスの2勝1敗、そんなに差はないような気がする。67%で十分なのではないか。

小林 今後、シンボリルドルフ級も出

ないと思うが、タマモクロス級もあまり出ないと思う。カツラギエースを超えたことではタマモクロスを評価したことにならない。

『シンボリルドルフに近づいた』ということで初めて評価になる。したがってカツラギエースから2上、そしてシンボリルドルフから2下の68が妥当だ。

朝日 強い馬というものはレースを落とさない。順調さを欠くのがどんな展開になろうが大負けはしない。その意味で、タマモクロスはシンボリルドルフに近づいたと思う。

岩澤 68。ていいだろう。

小林 では、タマモクロスを68に決定する。

渡辺 この年に入るグループは先ほどから何回も出ているように、ことしはかなり評価が落ちる。60のの大台に残るのはニッポーテイオーダーらしいものではないだろうか。

甲佐 ニッポーテイオーは昨年が63。だつた。ことしは一つ下げて62といつたところか。

渡辺 いや、二つ下げざるを得ないだろ。安田記念を勝つには勝ったが、宝塚記念ではタマモクロスに並ぶ間もなくスッとかわされた。それに天皇賞に出なかつた。

小林 同感だ。ことしのニッポーテイオーに関しては、短距離部門でそれ相応の評価をしてやればいいと思う。昨年は天皇賞に勝つことで総合の評価を高くしたわけだから、ことしは二つ下げるのが妥当だろう。

甲佐 しかし昨年の年度代表馬を争つた馬だから、そんなには評価を落とせない。ミスター・シービーにしてもミホシンザンにしても、前年の栄光をたたかれていかない。クシロキング、ヒカリデュール

といった馬は二つ下している。ニッポーテイオーのばあい、この2頭ほどは成績が落ち込んでない。

小林 前年の栄光は短距離部門でたたかれたということになって初めて評価される。昨年、総合部門で評価の対象としたのは天皇賞だった。

甲佐 二つ下げるくらいなら、むしろ除外したほうがいいのではないか、この馬の名譽のために。

小林 60の大台を切るというのなら名譽のために除外するが、切るわけではないのだから評価はすべきだろう。

滝澤 昨年、ダイナアクトレスは総合で評価したが、ことしはどうに扱うのだろうか。

小林 ことしは短距離実績しかない。したがって総合から除外する。

滝澤 なるほど、そういうことならニッポーテイオーも二つ下げて61。はしかたがない。

岩澤 では、ニッポーテイオーを61に決定しよう。

甲斐 シリウスシンボリはどうする。

小林 ダービー馬の名譽のためにこの馬も除外する。

渡辺 いや、二つ下げざるを得ないだろ。安田記念を勝つには勝ったが、宝塚記念ではタマモクロスに並ぶ間もなくスッとかわされた。それに天皇賞に出なかつた。

小林 同感だ。ことしのニッポーテイオーに関しては、短距離部門でそれ相応の評価をしてやればいいと思う。昨年は天皇賞に勝つことで総合の評価を高くしたわけだから、ことしは二つ下げるのが妥当だろう。

甲佐 しかし昨年の年度代表馬を争つた馬だから、そんなには評価を落とせない。ミスター・シービーにしてもミホシンザンにしても、前年の栄光をたたかれていかない。クシロキング、ヒカリデュール

フレッシュボイスは59だ。

今泉 この下の58にくるのはカシマウイング、トウショウウレオ、ランニン

グフリー、レジンドティオーといつたところか。

渡辺 カシマウイングの58はGIIを二つ勝っているので納得できるが、あと3頭はちょっとレベルが落ちるよう

に思う。

岩澤 トウショウウレオはGII路線に乗つてないから一つ下の57が妥当だ。

甲佐 ランニングフリーも57でいいのではないか。

岡部 いや、天皇賞2着の実績がある以上は58だらう。

吉田 レジンドティオーも58。でいいと思う。つねに大きなレースを使つてきて、GIIを一つ勝ち天皇賞3着の実績を残した。

甲斐 57はいま出たトウショウウレオに加えて、ランドヒリュウ、スピードヒーロー、ウインドストリームといったところはどうだろ。

今泉 異論はない。

小林 では58~57を整理したい。カシマウイング、レジンドティオー、

ランニングフリーの3頭が58。トウショウウレオ、ランニングフリー、スピーディヒーロー、ウインドストリームの4頭

が57。

岡部 シンウイングはどうする。

小林 二千㍍の重賞でも好走しているが、距離適性はマイル以下だ。短距離部門で評価しよう。

朝日 56はモガミヤシマ、ゴールドシチー、スダホーク、牝馬でメジロフルマ。

今泉 55~54では、55がスルーオーダー、プレジデントシチー。54がダイナカーペンタ、メイショウウエイカン、牝馬でコーセイ、メジロデイツシユ。

甲斐 53に牝馬のトップコート、ソウシンホウジューの2頭。牡馬でアイアシシロー、カイラスアモン、タニノスイセイ、ハツシバエース、ヒデリュウオ、パッシングパワー。

小林 ダイナアルテミス、ウイニングスマイル、ヒシノリフオーラは短距離部門で評価する。

吉田 52には牝馬でダイナオレンジ、ダイナブリーズ、シヨノリーガルの3頭。牡馬ではコバノリツチ、ソダカザン、トウショウユース、ローマンブリ

ンス、メークアスマート、レイクブルランシップ、ダイナオリンピア、タガジョオーラ、トキノオリエンント。

小林 サッカーボーイは函館記念を日本レコードで勝ち、マイルチャンピオンシップではまったくの完勝だった。ニッポーテイオーも4歳時、函館記念62がついているので、これを目安にまずサッカーボーイのハンデを決める

短距離 サッカーボーイ、ニッポーテイオーを並べて63キロ。

短距離部門の具体的な評価に移つてほしい。

今泉 サッカーボーイは函館記念を日本レコードで勝ち、マイルチャンピオンシップではまったくの完勝だった。

小林 4歳馬のサッカーボーイと6歳のニッポーテイオーがこの部門では上位だ。4歳時のニッポーテイオーには62がついているので、これを目安にまずサッカーボーイのハンデを決める

る。この比較からサッカーボーイには、4歳時のニッポーテイオーよりも一つも一つ上の評価は与えるべきだ。

吉田 同感だ。3ヶ月のブランクがあるにもかかわらず、サッカーボーイのマイルチャンピオンシップはすばらしい勝ちぶりだった。函館記念は本来この部門で対象となる距離ではないが、あのとき見せたスピードはひじょうに高く評価できる。4歳時のニッポーテイオーは62^{*}だから、サッカーボーイには一つ上の63^{*}をつけるのが妥当だと思う。

小林 4歳時のニッポーテイオーよりはサッカーボーイが上位という意見で全員一致しているようだ。一つ上の63^{*}で決定しようと思うが、もし二つ上の64^{*}という意見の人があれば言つてほしい。

渡辺 いや、やはり一つ上の63^{*}が妥当だろう。4歳時はともかく5歳になつてのニッポーテイオーの充実ぶりはすばらしかった。どれもみな余裕綽々のレースで、ことしのサッカーボーイ以上の強さだった。そのときのハンデが64^{*}なのだから、サッカーボーイを同じ64^{*}にするわけにはいかない。したがつて63^{*}にとどめるべきだ。

小林 ではサッカーボーイを63^{*}に決定する。

甲佐 オグリキヤップはどうしよう。

ニュージーランドトロフィー4歳Sの勝ち時計は優秀で、同じ時期に安田記念を勝つたニッポーテイオーの勝ち時計より速い。この事実はやはり短距離部門の記録として残しておくべきではないだろうか。

吉田 オグリキヤップは総合部門でトロフィーの評価をつけた。昨年の会議で、総合で高い評価をした馬については短

'88年のフリーハンデ 短距離(1600m以下)4歳以上

63	イオーネイティオーティー
60	ストーレスアクトライト
59	ボーキー
58	ヘリオスリンドストード
57	ウイングドウ
56	セントシーザー
55	サンキンハヤテ
54	トアファルコン
53	カイラスアーモン
52	スカーレットリボン
	ヒシノリフオーワウ
	ツジノジヨウラック
	マヤノラガーブラック
	ウイギングランシャダイ
	エルグールハート
	シマノファーミス
	ダイワダグラス
	(計23頭)

距離部門の対象として取り決めをしたのだから、ここでは触れなくていい

だらう。ニュージーランドトロフィー

4歳Sはオグリキヤップにとって、秋の天皇賞、ジャパンC、そして有馬記念に向かうステップ的レースだったと見たい。

小林 同感だ。総合部門でかなりの評価を与えた馬については、今後も短距離部門では評価しない。

甲斐 ニッポーテイオーの評価に移る。

渡辺 昨年は64^{*}だったが、果たしてこ

とははどうだろうか。

渡辺 前年と同斤の64^{*}は苦しい。安田記念を勝つたが、トライアルの京王杯スプリングCを落としたのが痛い。

甲佐 昨年より一つ下の63^{*}つまりサッカーボーイと並びでいいと思う。

小林 異論はない。

小林 それではニッポーテイオーを63^{*}に決定する。

今泉 3番手にはダイナアクトレスがくるが、上位2頭の何^{*}下が妥当だろうか。昨年は60^{*}だった。

岡部 ニッポーテイオーと2戦して1勝1敗、レース内容もまったく五角だった点は評価に値する。スプリンターチャンピオンシップが3着。安田記念

甲佐 安田記念を勝つたニッポーテイオーが昨年より1^{*}落ちている。そのため加味するとダイナアクトレスに昨年と同じ60^{*}をつけたとしても、春の3走の内容を大きく評価したことになるのではないか。

小林 では、ダイナアクトレスを60^{*}に決める。

岩澤 その下のグループではミスター

ボーキー、ウイングドース、ホクトヘリオスがいる。この3頭のなかで59^{*}にランクされる馬はあるだろうか。

渡辺 ミスター・ボーキーが一つ抜けて59^{*}で、あとの2頭は58^{*}だろう。

岩澤 ホクトヘリオスはマイルチャンピオンシップでサッカーボーイの2着にきた。勝ち馬には大きく離されているといつても、とても届きそうもないあの位置から直線一気に追い込んで脚はすごかつた。GIIIも一つ勝っているわけだからミスター・ボーキーが59^{*}なら、それに並べていいと思う。

渡辺 京王杯スプリングCの勝ち時計も優秀だ。

甲佐 昨年より一つ上の61^{*}でいいかも知れない。

小林 いや、ちょっと待ってほしい。

61^{*}ということになるとセツクス・アローワンスからいってニッポーテイオー、サッカーボーイと実質は同じハンデになる。春の3走は大いに評価するとしても、GIIの安田記念を落としたわけだから、やはり昨年と同じ60^{*}が妥当なのではなかろうか。

今泉 賛成だ。ことしはGIIのタイトルを2つ取つたが、力的に昨年と比べてそんなに伸びている感じがない。

渡辺 むしろ力は昨年のほうが上だつたのではないだろうか。安田記念は2着を守るのに必死だった。そうした点

渡辺 ミスター・ボーキーはGIIのスワンSが2着で、GIIの安田記念とマイル

チャンピオンシップが3着。安田記念

は内容的に十分見どころがあった。年間を通して短距離路線を走りつけた点、そして安定した成績を残した点を加味してミスター・ボーアにはやはり59点を与える。

吉田 昨年のセントシーザーが59%。ミスター・ボーアをそれに並べても内容的に何ら遜色ない。

小林 では整理したい。ミスター・ボーアを59%、ホクトヘリオス、ウインドストースを58%にする。

滝澤 マックスピューティ、フレンシエボイスはどうする。

小林 マックスピューティに関してはこの馬の名前のためにあえて評価しない。

甲斐 また、フレッシュユーポイスは総合評価よりも低いハンデになるので、ことはここに扱わない。

甲斐 57%では、セントシーザーとシンウイングが並びで57%、サンキンハヤテが56%、トーラアルゴンが55%。

小林 トウショウマリオはどうする。この馬については4歳部門で56%をつけてが、来年この短距離部門で活躍してくれるぞうな馬だから評価しておいてもいいと思うが。

渡辺 タイトルのない4歳馬についても評価していると際限がない。上位4歳馬については4歳部門で評価することにして、ここではあまり扱わないようしよう。

滝澤 同感だ。

小林 ではトウショウマリオについては対象外とする。

朝日 ただ、スカーレットリボンは例外として評価してほしい。報知杯4歳牝馬特別でアラホウトクを破り、桜花賞では1番人気となつた馬だから、その点は大いに評価すべきだろう。

54% 滝澤 同感だ。

小林 ではトウショウマリオについて

渡辺 異論ない。54%でいいだろう。

甲斐 では54%を整理する。カイラスアモン、スカーレットリボン、ヒシリオフー、ヒデリュウオーの4頭

シノリフー、ツジノショウグン、マヤノジが54%、ツジノショウグン、マヤノジが54%。

ヨウオ、ラガーブラックの3頭が53%。

3歳馬 サクラホクトオーの強さが断然で、87年のサッカーボーイと並ぶ56%。

——最後に、3歳馬の総合的評価に移りたい。まず概況を東西に分けて簡単に話してほしい。

今泉 関東の3歳馬はサクラホクトオ11頭が抜けている感じで、あとは全体的に例年よりレベルが落ちる。ところに福島、新潟デビュー組は、新潟3歳Sを札幌デビューのマイネルムートが勝ったことでも分かるように、結果的には力のある馬が出てこなかつた。ただ、札幌からは例年以上の素質馬が出ているので、こちらに関してはそれなりの評価が必要だろう。牝馬に関しては例年並みか昨年以上のレベルといつたところか。地方からきたドクタースペードがいきなり京成杯3歳Sを勝つたように、来年も(地)⑥の活躍はつくとも思われる。

小林 新馬、府中3歳S、朝日杯3歳Sのどれを見ても兄サクラチヨノオーがまだ身が上で、この馬は競馬にいつてひじょうに素直で、騎手の命令に対する反応が素早い。走る馬の条件を兄よりも備えている。来年のクラシックが、ダンディアボロ、ナイスナイスな3歳Sを勝ったラッキーゲラン、そのほかでとくに抜けた馬は見当たらない状だ。現時点でのトップはやはり阪神

3歳Sを勝ったラッキーゲラン、そのマリーのレースぶりが光った。デイリーリー、ミリオンテンリストといった馬が

3歳Sを勝ったラッキーゲラン、その能力が高いと思われる。そのほかシヤダイカグラ、タニノタゲット、サザ

今泉 52%はウイニングスマイル、ダ

イナルテミス、ダイワダグラス、シ

マノファイン、クールハート、エルグ

シノリフー、ヒデリュウオーの4頭

ランシヤダイの6頭。

ヨウオ、ラガーブラックの3頭が53%。

——では具体的な評価に移りたい。小林 サクラホクトオーの力が断然抜けているので、まずこの馬の評価から入ることにする。

岡部 兄2頭はどうやらかといえ、早熟タイプだったが、サクラホクトオーはまだまだ身がついて成長していくといふ期待感をもたせてくれる馬だ。成長途上でありながらあのレースっぷりはただものではない。父がマルゼンスキ

ーからトウショウボーアにかわって、そのまま兄のサクラチヨノオー、サクラトウコウよりもレースがしやすいと思う。3歳時のサクラチヨノオーよりは上の評価をしたい。

小林 新馬、府中3歳S、朝日杯3歳Sのどれを見ても兄サクラチヨノオーがまだ身が上で、この馬は競馬にいつてひじょうに素直で、騎手の命令に対する反応が素早い。走る馬の条件を兄よりも備えている。来年のクラシックが、ダンディアボロ、ナイスナイスな3歳Sを勝ったラッキーゲラン、その

能力が高いと思われる。そのほかシヤ

ダイカグラ、タニノタゲット、サザ

甲佐 それでいてまだ遊んでいるよ

うなところがある。いずれにしてもかなりの能力を秘めた馬だ。

岩澤 ここ2年、朝日杯3歳Sの勝ち馬がダービーを制している。この馬がもし無事にクラシック路線を歩めば、相当の大物が出てこないかぎり、3年連続で朝日杯3歳Sの勝ち馬がダービー

ーを制することになるのではないか。そんな予感がする。

朝日 昨年はサッカーボーイがトップの56%で、サクラチヨノオーが55%だった。サッカーボーイと並んで56%が妥当だと思うがどうだろう。

今泉 マルゼンスキの57%と同等は妥当だと思うがどうだろう。

岡部 異論はまったくない。

小林 マルゼンスキはけた違いのレースだった。これと並べるのはやはり無理がある。

甲佐 サッカーボーイはテンポ印ントの再来ということで56%に評価した。

3歳馬に56%がついたのは久しぶりで古くはパンプトンコート、ギヤラントダンサーにさかのぼる。56%でもサクラホクトオーを十分に評価したことになる。

小林 では、サクラホクトオーを56%に決定する。

甲斐 これに次ぐ馬では阪神3歳馬Sを勝ったラッキーゲランがその対象になるが、何とか下にくべきだろう。

渡辺 残念ながら関西の3歳牡馬はここ2、3年に比べてレベルがかなり落ちる。したがつて2%下の54%が妥当なところだと思う。

小林 55%だとサクラチヨノオーに並んでしまう。それと同等に扱うのは無理だ。やはり54%だろう。

朝日 昭和59年のダイゴツゲキが新馬、京都3歳S、阪神3歳Sを勝つて

'88年のフリーハンデ

3歳(西)

54	ラッキーグラン ※②アイドルマリー ※抽サザンビーナス ※シャダイカグラ ※②タニノターゲット ②市地ダンディアポロ ナイスナイスナイス ※アンデスレディー オサイチジョージ センリョウヤクシャ ②ドウカンホープ ナッシングボーイ ニシケンアンサー ニシノサムタイム ※抽ミスジュニヤス ミリオンテースト メイショウコブラ ※②ライトカラー ※②リリーズブーケ ※②リーディング エイシンリュウオウ オーミスシャダイ ※カミノテンホー ※カムイイット ※②クインラガー ※グレンエトワール ケイランサー シンタダシ ※②シンノーブル ステイジヒーロー ¹ ※市ダイイチポーラ タッチアンドエース タニノジュニアス ※市ツルマルオゴジョ ※テンザンブルース ※②テンザンロッヂ ※トキオエレメンツ ※②ナナヨーアトラス ナルシスノワール ※ハクヨウワールド 市パリスアンルリー ※②ファンドリボボ フレッシュナムラ マヤノピューマ マルカテーオー ②マルカラッキー ミスタートウジン ムービースター ※メインキャスター ※モガミハイトーン ※ヤングストシーナ 市ユタカニーズ ※②リバルドサキ ※②レディロクサーナ ※②ワンモアウイズミー (計55頭)
53	
52	
51	
50	

3歳(東)

56	父市サ克拉ホクトオー ②地ドクタースパート ※カッティングエッジ スクラムトライ ゴーゴーキング ②スズポーラ スタビート ※ブリマヨーコ ②マイネルムート ②市ミヨノゴールド ②アンシストリー オーガスト ②カリブソング クラシックブリッジ コクサイロイヤル ※②サクラメグミ ※抽ジャンボセイコ シンボリハイデン スピーカリーズン ※センゴクヒスイ トリックスター ※②ファンフォーアコ ②ブラックブレット ※ブルーメルセデス ②マイネルブレーブ ※市マツスイフト ②ミヨウジントップ モガミシチフク ※レディゴシップ 抽ワンダーナルビー アイネスボンバー ¹ 父アンバテスト ※イリアス 外エルミタージュ ※地エースメロディー ※サクラユタカヒメ ※②シラユリビゼン ※スイートアンナ テンホー ¹ 市ニッポージュピター ¹ ハセアンビション ②市バナシア ファンシーステップ ベッサーベルデン ②ベルオオシマ ※emainゲスト ※メジロモニカ ※メジロモントレー ※②メドレー ※モガミオージー ¹ モガミサイババ ※外ユーワベティ リアルビクトリ リンカーンシチー ¹ 父ロマネコンティ (計55頭)
54	
53	
52	
51	
50	

54。だから、これと同じ評価でかまわないと思う。

甲佐 54。ならドクタースパートも推薦したい。地方から転入して初コース、初芝の京成杯3歳Sを直線一気に快勝した内容は高く評価できる。

渡辺 内容は認めるが54。はちょっとつけすぎではないか。メンバーが弱かつたし、時計も平凡だ。

朝日 いや、わたしは54。に賛成だ。

渡辺 内容は認めるが54。はちょっとつけすぎではないか。メンバーが弱かつたし、時計も平凡だ。

朝日 いや、わたしは54。に賛成だ。

が出て馬場だったという点を割り引いて考えて、3歳のあの時期にこれだけのタイムを出すというのは並の馬ではない。

小林 とても届きそうにない位置から差しきつた脚は、たしかにただものではない。

岩澤 54。でいいだろう。

滝澤 関西の牝馬アイドルマリーも54。

渡辺 昨年、スイートローランスをあれだけ高く評価して54.にした。それから比較すると53.が妥当だ。

甲佐 牝神3歳Sを勝つていれば文句なく54.だが、負けた点で評価が一つ

下がる。

岩澤 この馬はスタートにちょっと難がある。デイリー杯3歳Sはひじょうに強い内容だったが、対戦相手に恵まれていた。53.でいいと思う。

小林 では整理したい。ラッキーゲラントとドクタースパートを54.、アイドルマリーを53.に決定する。

吉田 アイドルマリー以外に53.はいるだろうか。

吉田 アイドルマリーを53.に決定する。

今泉 関東の牝馬でテレビ東京賞3歳牝馬Sを勝ったカッティングエッジ、牡馬で朝日杯3歳S2着のスクラムトライ、この2頭も53.に評価できるのではないか。

甲斐 畏論はない。

小林 あとは将来性も加味して、52.

にランクできる馬をピックアップしてみたい。

吉田 関東ではミヨノゴールド、マイ

ネルムート、ゴーゴーキング、スズボーラ、スタビート、牝馬でブリマヨーリーを53.頭。

渡辺 関西ではダンディアポロ、ナイスナイス、牝馬でシャダイカグラ、サザンビーナス、タニノターゲットの5頭。

小林 以下の馬については、別表を参考にしていただきたい。